

檜の木だより

2020 1/1
第98号

ひとりひとりひかる

きぼう

発行：檜の木福祉会（法人本部）
かしの木の会

一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

檜の木福祉会 ホームページ

[http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



〈2019年の利用者さんの1コマ〉

新春のお慶びを 申し上げます

皆様方には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃は檜の木福祉会の活動にご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年も昨年同様、地域の方々、利用者の方々に
対して少しでもお役に立てるよう尽力して参りますので、引き続き、あたたかいご支援・ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。



新年のごあいさつ

新年おめでとうございます。

昨年は記念すべき令和の幕開けの年でありました。檜の木福祉会にとっても運動会はじめ盆踊りや檜の木フェスティバル等天候に恵まれ盛大に開催できました。これもかしの木の会員はじめ地域の方々など多くの方々のご支援、ご協力の賜と心から厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は支援員の人材確保、新規利用者の確保と法人の安定経営などの課題について組織を挙げて取り組んでまいりました。

関係各位のご支援を得ながら、社会環境の急激な変化に耐え得る社会福祉法人の基盤強化を図ることができました。

国では、「働き方改革」が検討され、定年延長制や多様な働き方が検討されています。なかでも、労働人口の減少に向け、外国人労働力の受け入れ緩和策が進められています。しかしながら、社会福祉事業を進めるにあたっては外国人労働力を頼りにすることはできません。利用者をお世話する方は、この地域の文化や価値観を熟知されていることが大切だと思います。この地域でお元気な方は、是非、檜の木福祉会へご一報いただきたく存じます。

関係各位の旧倍のご支援、ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。



檜の木福祉会理事長 北川登

新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

令和になって初めての新年を迎えました。

去る10月22日、即位正殿の儀が執り行われ、改めて新しい時代の幕開けを意識された方も多かったのではないのでしょうか。

私がかしの木の会の会長に就任しまして7ヶ月ほど経ちました。思えば、あっと言う間に過ぎた7ヶ月。その日々の中で、会長職をお引き受けすることがいかに重責であるかを痛感し、先代、先々代の方々に対しまして、改めて敬服した次第です。



前回のご挨拶文の中でも書かせていただきましたように、今かしの木の会は岐路に立っているのではと考えております。

様々な理由で活動に参加し辛くなっている状況。

「これまで通りの活動を続けて行くのか、それとも違う活動の形を選び直していくのか」を選択する時が来ているのではないかと思います。

現在、障害のある子供達を取り巻く環境も大きく変化し、また福祉に関する情報も日々更新されています。

保護者の会員の方にとっても、子供達の将来を考える上で必要となってくるのは、目まぐるしく変わる福祉に関する情報も含め、今何が起きているのかといった情報ではないのでしょうか。

会員の皆様がそういった情報を得る機会を少しでも増やしていけないだろうか、そんな想いから今年度臨時に「全体会」を行いました。

これからも手探りではありますが、全体会等を含め、いま本会に求められている活動は何か、皆様との対話を通してえらんで行けたらと思っておりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

かしの木の会

会長 小杉ひふみ

地域コーナー

「フェスティバルを終えて」

“視点を換えれば景色が変わった”

私はこれまでかしの木フェスティバルに対して否定的な思いでした。こんな事をして誰に何か伝わるのか疑問でしかなかった。何かを伝えるためにはパワーが必要です。ラグビーワールドカップを見て心打たれた人は少なくないでしょう。いろんなことを考えさせられ、そして、伝わるものがあった。なぜ？それは、日本代表の人達の必死さ、一生懸命さ、ひたすらに気持ちをぶつける姿に感銘を受けたに違いありません。その位パワーが必要なのです。

「やるからにはいい物にしたい」、そんな思いで前向きになって取り組んできました。否定的な事を言うてくる人が何人かいました。それでも前向きな気持ちでい続けようと思ったのは、かしの木の会運営会に出席している方の福祉会への思いや一生懸命さを見て、心を動かされた事が大きな理由の一つです。

開催当日の天候は晴れ。準備の前日も晴れ、とても恵まれていました。土曜日開催という事で中学校の行事とかぶり、ボランティアの人数が例年より大幅に少ない。そのせいかいつもより静かですっきりとした雰囲気。その雰囲気が悪いわけではないが、ボランティアがいてくれるお陰で明るい雰囲気になっていたんだなあと、そのありがたみを知る事ができました。そんな状況の中、いつもより会場を見渡すことができました。

様々な所で笑顔が見られた。イベントステージの音楽に合わせて踊っている親子。トランポリンで楽しく飛んでいる利用者。芝生でのんびりくつろぐ人達。気さくに話しかけてくる利用者。それを見て、「ああ、ちゃんとこのフェスティバルは役割を果たしているんだあ」と、なんだか嬉しくなりました。伝わる物はあったのです。

それだけにこのフェスティバルは大切にしていけないといけないと思うのです。もっと良い物になる可能性を秘めています。課題は沢山あります。無くしてしまった方がいいとの意見をする人もいますが、無くしてしまうのはもったいない。肯定的な人も否定的な人も歩み寄る事が必要です。



景色が変わった。自分自身がどう思い、何をしようとするかで景色は変わるものですね。これまで見ようとしなかったのかもしれませんが、前向きになることによって、沢山いい景色を見る事ができ、気付く事ができました。支援も一緒です。前向きになってその人の事を見ようとしなければ、その人の良い所は見つかりません。少しでも多くの方が前向きになって取り組めば、もっと良いフェスティバルになるはずです。

副実行委員長の2人や実行委員には本当に感謝をしております。それ以外でも沢山の人が力を貸してくれました。本当にありがとうございました。



来年はもっと良い景色が見たい。これが私の切なる願いです。

実行委員長

かしの木サポートプラザ 川口孝行

法人コーナー ①

令和元年度県立木曽川高等学校 ブラスバンド部演奏会について

今年度も利用者の皆さんが毎年楽しみにしている木曽川高校ブラスバンド部演奏会が、令和元年9月23日（月）に開催されました。

午前10時頃から同校体育館に参加者が集まり10時30分に演奏が開始されました。

迫力のあるクラシック演奏や皆さんおなじみのアンパンマンやちびまる子ちゃんなどアニメの曲も多く演奏されました。



木曽川高校の生徒の皆さんが曲に合わせた衣装に着替え楽しく踊り、それを見た利用者さんが前に出ていき楽しく踊っていました。手拍子をしている利用者さんも多く見られました。このとき体育館にいるすべての人が同じ音楽を聴くことで、皆の心が一つになり、心地よい時間の流れを感じることが出来ました。



演奏終了後、檜の木作業所の寛優里香さんと、喫茶らちえっとの岩田愛さんが感謝の言葉を述べられて、午前11時30分に楽しかった演奏会が幕を閉じました。木曽川高校ブラスバンド部の皆さんには今回もすばらしい演奏を聴かせて頂き心から感謝します。来年もまたこのような演奏が聴けることを楽しみにしています。

法人本部 戸田政之

法人コーナー ②

日々の発達支援で感じること

療育サポート事業

療育サポートプラザ事業は平成21年3月に始まり、今年度末で10年が経過しようとしています。この10年で療育相談・体験療育・巡回訪問支援等で出会った子ども達はおおよそ1300名で、年間延べ1600件程度の療育相談、300名程度の体験療育を実施しています。

また、年齢幅が1歳半健診前後から高校3年と広く、確定診断があるお子さんから、ちょっと育てにくい子まで、必要と思われるサポートの質・量共に大きく違うので、スタッフ一同が日々悩み切磋琢磨しながら歩んでいます。

今回はこの療育相談で年々増えてきている不登校について日々の相談支援で感じていることと、福祉職という立場から今後どのような支援をこの地域で実施していけると良いのかを述べさせていただきます。

チャイプの療育相談は相談内容に関わらず出産から現在までの生育歴を聞いていきますが、不登校に陥ったケースの半数以上が幼児期に発達の指摘を受け母子通園施設などの発達支援を受けてきたお子さん達です。

しかし、言葉の発達の明らかな遅れがないことで著しい集団適応の悪さもなく、ましてや学習の明らかな遅れもないお子さんの場合には本人の生きづらさに周りの大人達が気づき難く、チャイプの相談を利用する頃には家族以外の人とはコミュニケーションが取れない状況に陥っているケースもあります。

その場合には保護者の方との面談が中心となっていきますが、親心として我が子が少しでも学校に行ってくれることを望み、強く登校刺激を与えたことでより問題が根深くなっています。

その為、このようなケースの場合には、私たちは保護者の方に登校刺激を与えず辛抱強く関わって欲しいと、まずはお子さんの情緒の安定を優先

した言葉をかけさせていただくことが多くあります。そのような対応を心がけていただくことで、お子さんの情緒面が回復し自己理解も深まり高校進学という次へのステップに繋がりがやすくなります。

しかし、例えばコミュニケーションに苦手さがあり生徒数が少ない高校を選んだとしても、やはりその苦手さを突きつけられるタイミングが訪れるものです。

私たちは日々の療育相談で「得意を伸ばしていきましょう」と、短所に余り目を向けないような言葉を保護者の方に長くかけてきたように思います。しかし、不登校の子ども達が復学した時には必ず苦手な状況に直面していて、これまでの対応だけでは不十分であると感じています。

但し、チャイプに相談に来るお子さん達は認知の偏りや歪みがあるので、苦手なことはしないと決めつけて生きてきた子も多い為、その子の偏った興味関心を活かしたアプローチ方法を心がけています。このようなお子さんも、多くの時間を保育園や学校などで過ごしています。その為、障害を専門に対応している私たちは、保育園などの巡回訪問支援を通じて、障害特性の正しい理解と対応について先生方と学びを共にしていく必要性があると考えています。

また、児童発達支援や放課後等デイサービスでの現場実習で先生達が見て・聞いて・体験して学べる現場の提供こそが、障害の正しい理解に繋がる手段だと考えています。

療育サポート事業で得た知識・技術を今後は益々、子ども達が通う身近な場所に還元していくことが私たちの役割だと思っています。また、継続的にその活動を実施していくことが、発達凸凹のある子の社会的に自立した大人の生活に繋がっていくと考えています。

療育サポートプラザ 鷲尾廉仁

法人コーナー ③

新年を迎えて
～かしの木の仲間聞いてみた～



田深良成さん / かしの木の里

- 1: 神社の小物をあつかう仕事が大変だったけど頑張りました。アルミはがしの仕事もがんばりました。
- 2: 小牧の自衛隊に行ったことや旅行で彦根の城下町に行ったことが楽しかったです。自販機でコーヒーを買うのが良かったです。
- 3: 銅板を切る仕事をがんばりたい。いろんな仕事をやりたいです。「もっと仕事をがんばりたい。それが目標だ!!」
- 4: 「おもちを4個食べる」。かしの木のみんなどどこでもよいので旅行に行きたいです。



水谷圭吾さん / らでうす

- 1: チェーンホイールの仕事が大変でしたが頑張りました。
- 2: 家ではのんびりすることができてよかった。らでうすで行った旅行で、ヘビースターラーメンを作る体験ができて楽しかったです。焼きそば味のラーメンはおいしかったです。名古屋水族館に行ったことも楽しかったです。
- 3: 仕事は全部ががんばります。
- 4: 家ではガンダムのプラモデルを作りたいです。らでうすのみんなどと餅つきをやりたいです。

- 1 Q: 昨年、頑張ったことは?
- 2 Q: 昨年、楽しかったことは?
- 3 Q: 今年、目標または頑張りたいことは?
- 4 Q: 今年、やってみたいことや楽しみにしていることは?



竹元三紀さん / カフェふらっと

- 1: 洗い物は大変だったけど、お客さんがいっぱい来てくれたのが嬉しかったです。
- 2: お買い物楽しかったです。ホームのみんなど桃狩りに行ったことが楽しかったです。
- 3: パンにあんこをのせたり、シナモンをかけて、モーニングをがんばって作ります。
- 4: カラオケをしたり嵐のDVDを見ながらダンスをしたいです。ホームのみんなどディズニーランドに行きたい!



水谷滋さん / 榎の木園

- 1: 仕事で大変なことはなかった。それぐらい仕事をがんばれました。
- 2: 盆踊りや榎の木フェスティバルが楽しかったです。家族と小牧のキンブルに行ったことが楽しかったです。
- 3: そよかぜでリーダーシップがとれるようになりたいです。みんなと相談して仕事をがんばりたいです!
- 4: みんなと協力して旅行を楽しみたいです。



樋江井あすかさん / 榎の木作業所

- 1: ゴムの仕事楽しかったです。
- 2: ホームのみんなどということが楽しかったです。お父さん、お母さんと買い物にいったことが楽しかったです。作業所の旅行でモンキーパークに行ったことが楽しかったです。
- 3: ゴムの仕事をがんばりたい!
- 4: ホームのみんなどどこでもよいので旅行に行きたいです。



高松進さん / かしの木の里

- 1: ペットボトルのキャップの仕事をがんばりました。
- 2: 小牧の自衛隊を見にいったことやかしの木の里の旅行で彦根の城下町を散策したことが楽しかったです。
- 3: 銅板の仕事をがんばりたいです。
- 4: みんなと喫茶店やボーリングに行きたいです。



八木健之進さん / さいた

- 1: 出向先で土の再利用や肥料入れの仕事しました。すごく頑張りました。
- 2: さいたの皆と日帰り旅行でみかん狩をしたことです。
- 3: シーラーの仕事を早くできるように自分のレベルを上げたいです。
- 4: さいたの皆と長島スパランドで観覧車やゴーカートに乗りたいです。



福井寛隆さん / サポートプラザ

- 1: シールはりの仕事楽しかったです。
- 2: 家族とユニバーサルスタジオとディズニーランドに行ったのが楽しかったです。
- 3: シールはりをがんばりたいです。
- 4: お化け屋敷とジェットコースターがある遊園地に行きたいです。

インタビュー
GHC 武田信之

皆さん、緊張しながらも笑顔で取材に応じていただけました。
ありがとうございました。今年が良い年でありますように!

かしの木の会

障がいある我が子の親なきあとの幸せを守る対策は、親にしかできません。

昨年9月27日、尾西生涯学習センター大ホールにて、ご自身も障がいのあるお子さんをお持ちで、『親心の記録®』の普及活動をされている藤井奈緒さんをお迎えし、『親なきあと』をテーマに学習会を開催しました。

参加者：94名（保護者38、職員9、尾張のつどい33、きそがわ9、その他5）

『親なきあと』とは、死別だけでなく老いや病気などで子の面倒が見られなくなることをいい、その時はいつやってくるかわかりません。だからこそ元気なうちから備えてほしいと、藤井さんは呼びかけます。特に大事なものは法的な備えとして、制度を知ること。

「法定後見人の報酬月額をご存じですか？報酬額はその子名義の預金額で決まります。名義は、そのまま大丈夫ですか？」「財産なんて何もないから大丈夫、なんて思わないでください。家一軒あれば、相続問題が発生します」

藤井さんからの問いかけが、ダイレクトに胸に響きます。知っているものだけが正しく備えられ、知らないことで取り返しのつかないことにもなりかねません。情報収集を怠らない事が大切です。

藤井さんが今すぐ始めて欲しいと勧めているのが、『親心の記録®』の作成です。親なきあと、残された子やきょうだいが困らないよう必要な情報を書き残すノートで、言わば『我が子の取扱説明書』。藤井さんはこのノートがあまり活用されていないことを知り、ノートに直接書き込まず書きたいページのコピーを取って記入し、バインダーで保管するという方法にアレンジされました。

いつでも差し替えができるこの方法なら、気負わず書けそうです。



このノートの中に、『親として支援する方に伝えたいこと』という欄があり、藤井さんはこう書かれたそうです。「親がしてきた程の対応全てを望んではいません。むずかしい子だけど、この子が笑顔で生きていけるように、どうか助けてやってください」と。

母の愛と想いが込められたメッセージ、目頭が熱くなる思いでした。やがて来る親なきあとのために、皆さんも書き始めてみませんか？



『親心の記録®』より抜粋

かしの木の会
研修委員 小島由美

お知らせコーナー

赤い羽根募金に参加しました

令和元年10月3日(日)午前9時30分から赤い羽根共同募金「街頭募金」に参加しました。榎の木福祉会とかしの木の会の代表者が、一宮市三条のスーパー三心で、地元小学校、中学校代表の児童・生徒さんとともに、募金活動のお手伝いをしてきました。この日は、晴天にもめぐまれ、さわやかな声と明るい笑顔の中、たくさんの温かい心に触れ合うことができました。



健康フェアIN尾西に出店しました

10月・11月は、地域のお祭りや、各所のバザーがめじろ押しです。そんな中、11月15日(金)に尾西信用金庫本店で、尾西地区介護サービス事業者連絡会主催の「健康フェア」が開かれました。午前中は、健康に関するテーマでの講演会、昼からは、シャンソンや腹話術などの地域サークルの発表会がありました。その会場の、1階では、

榎の木園のコーヒー販売。2階では、榎の木の各事業所の自主製品の販売をさせていただきました。パンやクッキーなどの食べ物、花苗や寄せ植えなどもよく売れました。



販売所の準備の様子

榎の木福祉会の主な行事

- ◆令和元年度 榎の木交流会
- 日時 令和2年1月18日(土)
- 午後6時～
- 場所 尾西グリーンプラザ

ボーイスカウトからプレゼント

12月8日(日)ボーイスカウトの代表のお子さん、引率の方並びにライオンズクラブの皆さん9名が、地域交流室「夢ポケット」にいられて、つきたてのお餅の寄贈をいただきました。

当日は、GHC(グループホーム)かしの木の利用者の代表、かしの木の里の利用者の代表、そして職員総勢7名でお迎えし、しばしの歓談後、贈呈式を行いました。

いただいたお餅は、さっそくかしの木の里やGHCかしの木の利用者の昼ごはんに加えられ、とてもおいしくいただきました。ありがとうございました。



榎の木作業所に送迎バスを整備



令和元年9月19日(木)一般社団法人、中京馬主協会様から助成をいただくことになり、目録贈呈式に出席しました。これで、念願であった榎の木作業所の送迎バスを新しくすることができます。以前のバスは、走行距離も長く、内装もとても傷んでいました。年明けから29人乗りの新しい送迎バスの運行が始まります。助成していただいた中京馬主協会のみなさまありがとうございました。また、このバスの取得に協力金をいただいた旧「どんぐりの会」の皆様にも、お礼申し上げます。



イメージ